

No	18	分類	2-(2)-ア	資料名	百日かせぎ	学年	6年	領域	道徳	4-(2)
----	----	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- きびしい差別の中で、地域を愛し、差別解消と地域の発展のために力を合わせた人々の思いに学ぶとともに、課題に対して主体的・中立的に働きかけ、差別のない社会を実現しようとする意欲や行動力を高める。

2 趣旨

- 長い間差別に苦しんできた村の人たちが、「百日かせぎ」とよばれる酒造出かせぎに出て蔵人(くらびと)として活躍する姿を通して、差別のない社会の実現をめざす取組として描いている。
- 部落差別に立ち向かい、要求を実現した先人の生き方に触れることで、差別は解消できるものであるという意識をもたせたい。
- この学習を通じて、生活の中の不合理を見抜く目や、進んでそれらを解決しようとする態度を育成する。

3 配慮事項

- 本資料の活用にあたっては、学校や地域の実態や、部落差別にかかわる児童の意識や学習状況に応じて、適切な配慮をし、事前、事後の学習を考える必要がある。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 「百日かせぎ」に対する、村の人々の思いについて考える。 「百日かせぎ」に対して、村人はどんな思いをもっているのでしょうか。 ・ わしらの村だけが行けないのはおかしい。 ・ 何とかならないのか。 ・ 事をあらだてても仕方がない。 「真剣に考えてみます。」という大木さんの言葉を聞いて、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 願いが叶うかもしれない。 ・ 理解してくれる人がいてくれてうれしい。	・ 村の生活を改善したいという強い願いに気づかせる。 ・ 「事をあらだてても仕方がない」という言葉から、状況のきびしさと、村人の苦悩があることを認識させる。
2 大木さんの言葉について考える。 大木さんはどんな思いで「心をひとつにしないといい酒はできん。」と言ったのでしょうか。 ・ 仲間外れがあつては、力を合わせたい仕事はできない。 ・ 差別をなくしていきたい。	・ 差別解消へ向けての第一歩が踏み出せたことに対する大きな喜びに共感させる。 ・ 「差別を見すごして何もしないのは、差別しているのと同じですね。」という大木さんの言葉に注目させることにより、傍観は差別を許すことになることに気づかせる。
3 栄治がつくった酒を飲むおじいさんや村人の気持ちを考える。 涙をうかべて酒を飲むおじいさんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 栄治のがんばりがとてもうれしい。 ・ 村の仲間が差別の解消のためにがんばってくれたことがうれしい。 ・ 差別をなくしていけるかもしれない。	・ 差別によって「百日かせぎ」に参加できなかった昔を思い出し、差別をなくす取組ができた喜びを感じとらせる。
4 自分たちの町の取組を知る。	・ 差別のない町づくりをめざして、自分たちの町でどのような取組が行われているのかを知り、自分も意欲的に取り組んでいこうとする気持ちを高めさせる。